

日常診で支部より報告



左から楠良寛氏、八木秀満先生、綿谷茂樹先生、滝本桂子先生

第25回日常診療経験交流会が11月15日、神戸市産業振興センターで開催され、会員、スタッフなど、208人が参加した。医科・歯科・薬科交流企画「フレイルと医歯薬連携」のほか、救急フェスタやポスターセッションなどが行われ、幅広いテーマで交流が行われた。

分科会では、わたや整形外科の綿谷茂樹先生が「レントゲンを撮影しながら考えたこと」、野村医院の楠良寛氏が「地域に根ざし人々の『生きる』を支える送迎～患者送迎の到達点と今後の課題」、薬局リベルファーマシーの滝本桂子先生が「本気でケアマネージャー～10年間の報告」をそれぞれ報告。医科・歯科・薬科交流企画では、支部から八木秀満先生が、フレイルについて言及した。

支部会員の先生方へ

未入会のお知り合いの先生、 ご子弟に入会を是非おすすめください

保険医協会は県下で7,300人以上の医師・歯科医師が入会し、開業医が安心して診療に打ち込めるよう支えあう、開業医自身がつくる団体です。医学の進歩と医療技術の向上、変化する医療制度への対応、怪我や病気など万が一の時の備えなど、開業医の診療、経営、生活を全面的にサポートします。勤務医の先生も県下で約1,600人の先生方にご利用いただいております。

協会未入会のお知り合いの先生、ご子弟に是非、入会をおすすめください。



「サポート力」
いちばん身近に
いちばん親身に

兵庫県保険医協会 尼崎支部ニュース

381号

2016年11月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

尼崎支部文化企画 感想文

三次元「真田丸」ウォーク のサプライズ



ガイドの案内つきで真田幸村ゆかりの地を歩いた

尼崎支部は11月5日、文化企画として「真田丸ウォーク」を開催。会員・家族ら14人が参加し、大河ドラマ「真田丸」の主人公・真田幸村(信繁)ゆかりの地を、ボランティアガイドの案内で訪問した。西村正先生の感想を紹介する。

歴史大好きな当院の患者N氏と参加させていただいた。真田丸は玉造付近と聞いていたが、実際に歩くと小高い丘の最高点にあり、なるほど戦略上の要所と分かる。大昔、上町台地は海に突き出た半島だったとのこと。何回も高低差を感じながら歩くと、この台地の複雑さがよく分かる。単一な大阪平野のイメージが見事にひっくり返った。この台地は織田作之助や井原西鶴の墓など、隠れスポットの宝庫だ。(2面につづく)

(1面のつづき)



大阪冬の陣の際に掘られたと伝わる抜け穴
実際は徳川側が掘らせたものだとガイドが説明

後期高齢者のガイド氏の博学と健脚に、同世代のN氏はいたく感激。「よし、俺もあのようにと元気をもらわれたのは何よりだった。

最後に案内されたのは大福寺、維新直後に医学伝習所(大阪大学医学部の前身)がおかれた寺だ。父から曾祖父がここで勉強していたと聞いていたので、感激もひとしお。

ガイド氏が卒業写真を見せてく

れた。サムライ姿の男達に混じって、丸髷の娘が写っている。八木秀満支部長によると、シーボルトの孫タカとのこと。日独のクォーターですごい美人だ。私のひいじいさんからわずか4~5人目に立っている。この時、彼がもっとアタックしてくれていれば、私はイケメンだったかも?と良からぬことを考えた、楽しい一日だった。

八木支部長と事務局の皆さま、本当にありがとうございました。

【尼崎市 西村 正】

支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せ下さい。

TEL 078-393-1805 / FAX 078-393-1802 e-mail naga@doc-net.or.jp 担当;長澤まで



第515回幹事会だより

11月18日(金) 於 武庫之荘「エルジーキッチン」

- 尼崎支部の会員数
11/17 現在 医科 389 人、歯科 154 人
- 医療をめぐる情勢と運動対策
当面の支部企画、医療情勢などについて意見交換した。
- 次回の幹事会
12月16日に「天竹」にて開催。

第96回医療と福祉を考える会を開催

顔が見える関係づくりを



松森先生は在宅との連携が大事だと訴えた(写真左)



熱心に講演に聞き入る参加者(写真右)

尼崎支部は11月17日、第96回医療と福祉を考える会を尼崎だいもつ病院で開催した。今回は、松森良信先生(尼崎だいもつ病院院長)が「地域包括ケア病棟と在宅との連携」をテーマに講演、医師・歯科医師・薬剤師など21人が参加した。

まず初めに、松森先生はだいもつ病院も加わる愛仁会グループのあゆみや理念について紹介。愛仁会は医療体系を「統一した意思、理念」のもとに集約し、地域に満足いただける医療の実践に寄与しようと創設され、当時の意思は今なお大きな柱となっていると解説した。

また、同病院の特色についても説明。もう少しの入院治療で社会復帰が見込まれる患者や、在宅や施設での療養中に状態悪化された患者の受け入れを行うために地域包括ケア病棟を設けていると紹介した。

最後に、「患者さんはいずれ必ず在宅に帰らなければならない。顔が見える関係づくりが大切」と訴えた。

講演会終了後の交流会では、職種間で活発に意見交換した。

支部では、今後も医療、介護、看護に関わる方々が気軽に参加できる学習会を開催する予定にしている。